

京都

KYOTO

不思議ふしぎ!?

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都好きを大好きに

京都 検定

京都・観光文化検定試験
京都商工会議所

七福神再臨！ 圓成寺の「奇跡の絵馬」

洛北鷹ヶ峰に圓成寺という名刹があります。通称を岩戸妙見宮という日蓮宗の寺院です。寺基の歴史は古く、桓武天皇が遷都に際して祀られた四方妙見の二つ、北山靈巖寺に由来します。天皇は元旦に「四方拝」を行い、これらの諸神に国土の

安穩と皇城の鎮護を祈念されます。この寺の歴史を継ぎ、江戸時代に本満寺の日任上人によって再興されたのが現在の圓成寺です。

ここはとにかく不思議なところで、古代の古墳をそのまま利用した本堂には、亀に

乗り剣と蛇をもつ六尺余りの石造妙見大菩薩がお祀りされており、境内には住職の代

替わりに姿を現すという白蛇を祀る弁天様や加藤清正が勧請した大黒様、痔の神様・秋山自雲神などが点在し、秋の紅葉には圧倒されます。

この魅力溢れるお寺の絵馬堂でその奇跡は起きました。ここには文化十二年（一八一五）に奉納された七福神の絵馬があったのですが、

年を経て色はもちろん、図柄さえ判別できませんでした。由緒ある絵馬を朽ちさせるのは惜しいと、日本画家の大野俊明氏が修復を依頼され、氏は資料を丹念に当たり、苦勞の末に色鮮やかで見事な七福神の姿を復元されました。その絵馬が本歌の隣に掲げられると、なんと

いうこと、輪郭すら分からなかった絵馬にうっすらと福神たちの姿が浮かび上がってきたではありませんか。その形も次第に鮮明になり、今ではほぼその輪郭を認めることができます。仲良く並ぶ二枚の絵馬を見上げるたび、つくづく京都という都の底知れぬ力を感じずにはいられません。

（京都学園大学非常勤講師 堤勇二）



本尊を象徴する本堂扁額



大野俊明氏による復元額



輪郭が浮かび上がった奇跡の本歌額